

# いご並木

No. 70

## オール岡大で 大学を支える 10月19日岡山大学Alumni (全学同窓会) 設立

特集  
Special Section

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生  
**灘波 弘樹 さん** 三井物産株式会社 プロジェクト本部
- 研究室訪問 **桑原 敏典** 大学院教育学研究科 教授
- 「研究大学強化促進事業」支援対象機関に選定
- 「学長と学生の対談」を開催
- 世界初 生体肺中葉移植に成功
- 岡山大学病院が新生生前診断実施施設に認定
- 「がん陽子線治療センター」開業へ
- 宇宙を旅したヒマワリ種子 小中学校に引き渡し
- オープンキャンパスを開催
- アフリカ地域の教育関係者が附属小で実践授業
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学ホームカミングデイ 2013 開催予告



# “オール岡大”で 大学を支える

特集  
Special Section

—Alumni設立に向けて尽力されてきたが、その思いの原点は。—  
岡山大学における全学同窓会は「岡山大学同窓会」として設立されてはいたが、わずかな予算で運営していたこともあって年に1、2回総会を開く程度で形式だけに終わっていた。私自身、会長を務めながらこのままでいいのかわと疑問を感じていたところ、大学側から岡山大学同窓会の抜本的改組構想の提案があった。岡山大学がそれ相応の地位を保つていくためには大学だけではなく卒業生の力が必須だ。  
岡山大学は1949年の学制改革により岡山地区に所在していた旧制諸学校を包括して創立された。当時、私は前身の旧制第六高等学校（1950年3月廃止）にいたが、先生方から「一緒に新しい大学をつくらう」と思いを込めた勧誘があり、先生方も学生も皆が心一つに新制大学として頑張ってきた。だが、今日に至るまでの岡山大学に当時の熱い気持ちを引き継がれているかという点必ずしもそうではないだろう。私はあの時のエネルギーを後輩に伝えたい。卒業生には岡山大学の原点を思い出していただきたい。

—設立に向けて、各学部同窓会の意見集約に時間を要した理由は。—  
Alumniは既存の各学部同窓会の上部組織なのか、並列組織なのか、その関係が最大の問題だった。Alumniと各学部同窓会で二重の会費が必要となるわけで、各学部同窓会への納入率低下や活



1953年 法文学部卒業  
元通産産業事務次官  
財経産産業調査会長、弁護士

## 岡山大学同窓会長・小長啓二氏に聞く 第一期生として 岡山大学に寄せる熱い思い

—Alumniに期待するポイントは。—  
現状では各学部同窓会の活動には温度差があり、学部間交流もあまりない。Alumniを契機に各学部同窓会の学部間交流を活性化させたい。他学部の卒業生らと接触することでそれぞれの仕事の領域が広がるなど新しい世界の発見

—Alumniに期待するポイントは。—  
つながるはずだ。また、教職員は卒業生らともより密接に意思疎通を図ることが可能となり、Alumniとして大学の新規研究プロジェクトなどの情報を早く掌握できれば申請段階からサポートできる。Alumniの活動を通じ、構成員が新しい環境の中で実績を上げることができればうれしい。岡山大学が旧帝大に負けず、グローバル化の流れに即応できる大学となるよう、関係者の方々には設立後も引き続きご支援・ご協力いただくとともに、大学側には在学生や教職員らに対するAlumniのPRをぜひお願いしたい。

## ● 森田潔学長に聞く 大学、同窓会 それぞれの発展を目指す 卒業生であり、学長としての使命

岡山大学はこれまでに10万人近い人材を輩出し、卒業生は学部・学科ごとに同窓会を組織して結束を図ってきた。2004年4月、大学が国立大学法人となり、同窓会も2006年に全学同窓会として「岡山大学同窓会」を発足。大学間競争が激化する中、大学と同窓会の発展へより有意義な活動を行う必要性が高まり、岡山大学同窓会を再編した「岡山大学Alumni (全学同窓会)」を立ち上げる。これまで顧問の立場だった大学側も理事として運営にかかわり、卒業生らの全国的なネットワークを生かした在学生への就職、留学支援なども強化される。設立に向けて尽力してきた森田潔学長、岡山大学同窓会長の小長啓二氏にAlumniに寄せるそれぞれの思いを聞いた。

—同窓会と大学が一体となった「Alumni」設立の背景にある思いは。—  
学長に就任した際、岡山大学同窓会が低いことが気にかかった。岡山大学は単科大学ではなく総合大学であることが強みだが、卒業生にとってはそれぞれの学部を卒業したという思いの方が強く、岡山大学というナショナルリズムが少ないと実感。卒業生には各学部の絆に加え、「岡山大学を卒業した」という共通の絆を持ってほしいと思った。また、同窓会は卒業生の組織であり、在学生や教職員、研究生らはこれまで構成員ではなかった。岡山大学を選び、教育・研究にかかわった人たちは岡山大学に対する熱い思い、共通の絆をぜひ持ってほしい。その気持ちで岡山大学の支援に、ひいては岡山大学の発展にもつながるだろう。

—既存の各学部・学科同窓会との関係は。—  
Alumniは岡山大学共通の組織であり、既存の各学部・学科同窓会を無にするものではない。学長就任時から全学同窓会をつくる構想を立てていたが、各学部・学科同窓会との間でそのあたりを理解いただくのに時間がかかった。設立に至ることができたのは岡山大学同窓会長である小長氏のご尽力によるところが大きい。

—Alumniに期待するポイントは。—  
卒業生らとの情報交換が行いやすくなり、在学生の就職支援にもつながる。最終的には岡山大学の大学全体のレベルを上げるサポーターになってもらいたい。運営基盤強化のための安定的な財源確保は今後の課題ではあるが、将来的にAlumniから研究資金が出るようになればこれほどうれしいことはない。岡山大学が知の養い手として発展するとともに世界的な学術研究の中で確かな存在感を与え、岡山大学で学んだすべての人が岡山大学のアイデンティティーに誇りを持つことができるよう、同窓会と大学が手を取り合って岡山大学を変えていかなければならない。岡山大学医学部卒の学長は私が初めてであり、だからこそ、それが私の使命だと思っている。



## 岡山大学 Alumni (全学同窓会) とは

### 設立までの流れ

大学側から岡山大学同窓会の抜本的改組構想が提示され、昨年1月ごろから同窓会と大学とが連携した全国的ネットワーク組織「岡山大学 Alumni (全学同窓会)」設立の検討が始まった。森田学長と岡山大学同窓会長の小長氏の連名で同年10月に設立趣意書が発表され、今年1月から8月にかけて計4回の設立準備会を開き、大学執行部と岡山大学同窓会理事らが組織形態や会則、事業計画などを議論。10月1日の第5回設立準備会を経て10月19日に設立に至る。

### 構成員・組織形態について

Alumni はラテン語で「養われた者たち」を意味する。岡山大学 Alumni (以下、Alumni と表記) は岡山大学の知的な営みによって養われたすべての方々を指すものと考え、卒業生だけの岡山大学同窓会とは異なり、卒業生に加えて在学生や教職員、留学生、研究生など短期間でも岡山大学にかかわった人が構成員となる。大学側は岡山大学同窓会において顧問の立場だったが、Alumni においては理事として積極的に運営に関与することになる。また、Alumni は既存の各学部・学科同窓会から独立した組織として運営される。

※組織形態については表参照

### 主な事業計画について

#### 1 各地域への支部組織設置、学部を越えた交流の推進

全国的なネットワーク構築へ、Alumni 各支部設置に向けた作業を進める。学部同窓会の活動は各学部によって温度差があり、支部組織の有無もさまざまであることから、全国における学部同窓会支部の現状について調査し、関係者らと意見交換しながら各地域の実情を十分踏まえた支部を設置する。なお、愛媛県松山市では昨年より鶴翔会松山支部(医学部同窓会)、法文経・工学部同窓会愛媛支部合同の「岡山大学松山同窓会」が開かれており、既に学部を越えた交流が推進されているが、こうした同窓会活動の活発な地域から展開していく。Alumni 各支部の活動によって学部間交流や異業種交流の実現、発展を目指す。また、海外で活躍している卒業生も多いことから、外国人留学生同窓会と協力して海外支部も設置する予定。

#### 2 就職支援活動の強化

キャリア開発センターと協力しながら、Alumni のネットワークを使った全国的な就職支援を行う。在学生の国家公務員試験(総合職)合格率が高いことから、Alumni を通じて中央官庁幹部として働く卒業生らの力を借り、国家公務員合格者や就職希望者向けの講義・セミナーを充実させるほか、民間

企業で働く卒業生らによる民間企業就職希望者への情報提供やオリエンテーションの機会を設けるなど、卒業生の経験やノウハウを在学生に伝える体制を整える。

#### 3 グローバル人材養成への協力

今年4月にグローバル人材育成院が発足し、海外の大学への留学や国際インターンシップなどのプログラムがあるグローバル人材育成特別コースが開設された。大学が主体となって行う事業に対し、Alumni としても奨学金などにより、より多くの海外留学推進に向け学生をバックアップする。

#### 4 新規研究プロジェクトの獲得

政府は成長戦略、科学技術振興などで時代先行の予算案策定に動いている。中央官庁に就職している卒業生も多いことから、Alumni として助成金公募情報のいち早い収集による大学の積極的な予算獲得を支援するなど、各界第一線で活躍する卒業生と大学との連携強化を推進する。

#### 5 岡山大学ならではのオンラインワンプロジェクトの発掘と推進

学生の活動を支援し、学術研究やスポーツ、文化などにおける優れた人材に対して助成(振興を目的とした顕彰など)を行い、岡山大学ならではのオンラインワンを実現する。

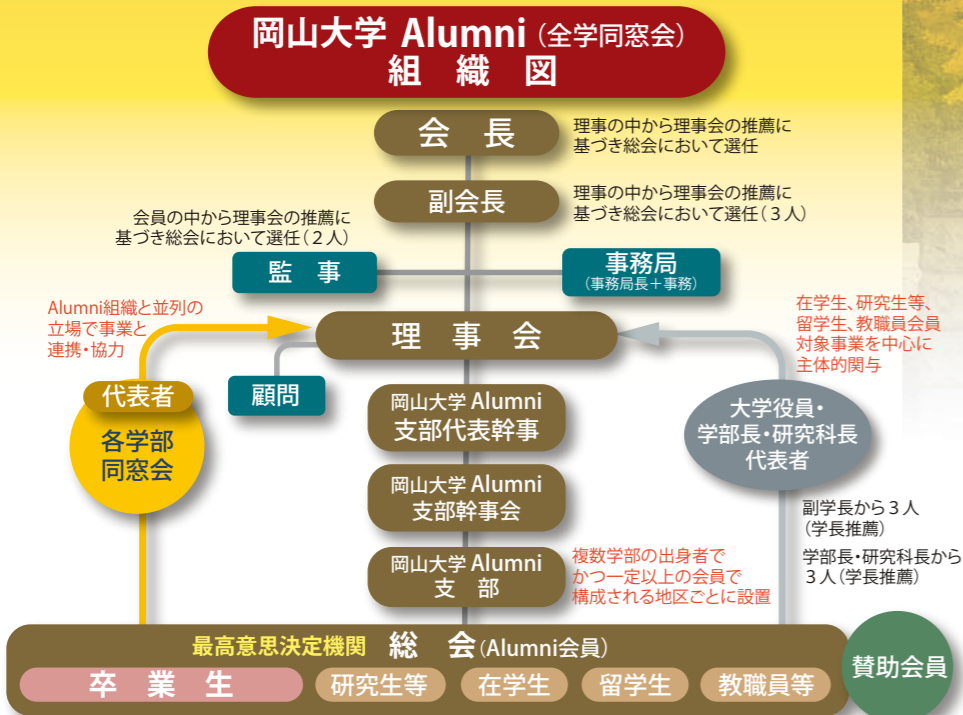
### 設立後の流れ

岡山大学同窓会は各学部同窓会の会員情報を保有していないため、各学部同窓会名簿の次回更新時に卒業生に Alumni への個人情報共有の同意を得ていく。また、校友会組織にも協力を依頼する。会員情報の共有作業は2018年度に完了予定。終身会費1万円は教職員

や卒業生から先に徴収し、来年度の新生から入学時に徴収する。今後はウェブ版コミュニケーションシステムを独自に構築し、会員に対する大学や同窓会の活動状況などのリアルタイムな情報発信や会員間のコミュニケーションを支援していく。

#### 6 ホームカミングデーに関する支援

卒業生が同窓生や在学生、教職員らと交流・親睦を深めることを目的とし、2011年から毎年秋に大学が開催している「ホームカミングデー」において充実した企画が展開できるように、Alumni として協力する。



表：岡山大学 Alumni 組織図

### ●荒木勝理事 (社会貢献・国際担当) からひと言 基盤となる岡山大学を愛する気持ち



流動化する社会において大学を取り巻く環境も著しく変化し、経済的にも社会的にも厳しくなる中、岡山大学が高い成果を上げていくためには大学と Alumni の協力が必須。Alumni 設立の大きな特徴は同窓会と大学が双方の発展のために力を合わせ、強力なネットワークを再構築することにある。それを支える基盤は岡山大学を愛する気持ちであり、組織を作っても魂が入らなければ意味がない。各同窓会の活動支援や学生らの就職支援、留学支援など魅力的な事業を目に見える形で展開し、Alumni の存在が在学生や同窓生らに浸透することが急がれる。また、大学側としても在学生や教職員らに信頼されるよう努めなければならない。



三井物産株式会社 プロジェクト本部 ◆岡山大学経済学部卒

# 灘波 弘樹

N A M B A H i r o k i

「先の予定が立てられない」(灘波氏)ほど  
忙しく世界中を飛び回り、プロジェクトに携わる。  
英語と中国語を操り、貪欲な姿勢で  
グローバル時代に立ち向かう。

- ▶なんば ひろき (43歳)
- 1970(昭和45)年 香川県高松市生まれ
- 1994(平成6)年 岡山大学経済学部卒(黒正賞受賞)
- 1994(平成6)年 三井物産株式会社入社 人事部/資金管理部 輸出為替室
- 1995(平成7)年 財務部 外国為替室
- 1996(平成8)年 関西支社 鉄鋼部線材・特殊鋼営業部
- 1999(平成11)年 海外修業生(中国語) 北京語言文化大学留学
- 2000(平成12)年 海外修業生(中国語) 重慶事務所
- 2001(平成13)年 交通プロジェクト部 台湾高速鉄道プロジェクト営業部
- 2008(平成20)年 Mitsui Rail Capital, LLC 出向(米国・シカゴ)
- 2010(平成22)年 三井物産プラントシステム株式会社出向/中国プロジェクト部
- 2012(平成24)年 三井物産プラントシステム株式会社出向/海外交通プロジェクト部

## 高速鉄道を台湾に輸出

三井物産プロジェクト本部所属で三井物産プラントシステム(株)に出向し、世界各地の鉄道プロジェクトに携わっています。2007年に台湾の台北―高雄間345キロで開業した「台湾高速鉄道プロジェクト」も担当しました。

これは日本の商社とメーカー計7社が日本連合を組成し取り組んだプロジェクトで、受注内容は車両、信号、供电、変電等を含むコアシステム及び軌道システム。私は2001年、軌道システム入札の年から関わりました。契約交渉では価格を含め全ての条件が合意に達して初めて契約が成立します。他に応札していた欧州勢との競争で常に天秤にかけられる中、台湾側の担当者と英語で交渉を重ねました。

## 中国派遣が力に

就職先に三井物産を選んだのは世界を飛び回る仕事への憧れから英語が好きで、生かしたいとも思っていました。台湾高速鉄道プロジェクトに携わったきっかけは1999年から2年間、社内選抜試験で選ばれ海外修業生として中国へ派遣されたこと。1年目は語学研修、2年目に実務研修を行うプログラムです。その頃の中国は経済が発展し始めた時期で、世界の中でも注目されつつありました。実務研修では配属先の重慶事務

所長を補佐。鉄鋼、機械、化学品、繊維、食品など各担当の中国人スタッフとともに業務に当たりました。山奥でとれる原料を見に現地まで足を運び、素材の価格交渉をしたこと



米国・シカゴ勤務時代のスタッフと▲

## 沈黙は通用しない

台湾高速鉄道プロジェクトのうちに大きな事業では、大々的にスポットライトを浴びる契約時は華やかに思われますが、大変なのはその後の契約履行。忍耐力が必要で、辞めたくなるほど苦しかったのはトラブルが起きて悩み、苦勞した場面ばかり。しかし、今振り返ると「苦しかったけど真摯に対応した結果、何とか乗り越えられた」という自信に繋がったように思います。

## 何でも興味を持ち吸収

三井物産の仕事は「新しいビジネスを考える」こと。多様な事業を手掛けられるのは面白いですが、言い換えれば未知な領域ばかり。グローバル企業で生き抜くには何にでも興味を持ち、どんどん吸収して自分のものにしていく姿勢が必要です。現状に満足せず、新しいことに果敢に挑戦し続けなければなりません。

海外に出ると、現地では「ビジネスをさせてもらっている」という謙虚な気持ちを持つことも重要。ビジネス相手国に傲慢な態度で接してしまう日本人もいますが、そのような態度では必ず失敗します。今後は、さらにグローバルな視野を身に付けるつもりです。さまざまな分野で国際競争が熾烈化する中、日本が打ち勝っているのか危機感もありますが、世界で戦わずして未来は拓けません。

# 世界を舞台に 果敢に挑戦



## 三井物産株式会社

MITSUI & CO., LTD.

### ■三井物産株式会社

本店：東京都千代田区大手町  
 事業内容：金属、機械・輸送システム、化学品、エネルギーから食品、生活関連まで多種多様な商品販売や国際的プロジェクト案件の構築など  
 売上高：10兆496億円(2013年3月期)  
 社員数：6,167人(連結従業員数45,148人)(2013年3月31日現在)

60以上の国・地域に150を超える拠点と約4.5万人を数えるグループ従業員を抱える。年商約10兆円の総合商社を代表するグローバル企業

大学院教育学研究科教授

# 桑原 敏典



**KUWABARA Toshinori (46歳)**  
 ▶1967年 愛媛県温泉郡川内町(現東温市)生まれ  
 ▶1990年 広島大学教育学部 卒業  
 ▶1992年 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了  
 教育学修士  
 神奈川県立豊田高等学校 教諭  
 ▶1995年 広島大学附属中学校・高等学校 教諭  
 ▶1997年 岡山大学教育学部 助手  
 ▶1999年 同学部 講師  
 ▶2001年 広島大学で文部科学省内地研究員として研究  
 (~2002年2月まで)  
 ▶2002年 教育学博士(広島大学)  
 ▶2003年 岡山大学教育学部 助教授  
 ▶2007年 岡山大学大学院教育学研究科 准教授  
 ▶2013年 同研究科 教授

「高度な知の創成と的確な知の継承」一。  
岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する  
個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

研究室  
訪問

## 社会科教育学の課題

「社会科は暗記中心の科目と考  
えられがちですが、「いかに自分  
で考えるよう促せるか」が長年  
の課題」と話す桑原教授。ヒン  
トを探すため、米国の社会科  
教育を研究してきた。

米国では、多文化や価値多元  
化を前提にした教育が行われ、  
どの段階で何をどのように思考  
し、判断させるかという教育課  
程編成の研究が進んでいる。教  
科書には単元ごとに「ルールが  
なかったらどうなるのだろうか」  
「なぜ政府が必要なのだろう」  
「なぜリーダーがいるのだろ  
う」など問い掛けが多く並  
び、小学校から自  
由や権利といった  
抽象的な概念を具体  
的な出来事に絡めて  
考えさせている。こ  
うした教育学は、日本  
でも子どもが主体的に  
考え、自主的に学ぶ教育を  
拡充するのに参考になるとい  
う。



桑原教授が研究する米国の教科書▶

## 新しい授業づくり

桑原教授は広島大学附属中学  
校・高等学校の教員時代、ハン  
セン病や水俣病を題材にした授  
業を開発した。内容は、資料に  
基づき問題の原因や理由を考え  
させ、論争点を明確にし、どの

# 「何を取り上げ、どう教えるべきか」 日本の教育方法を考える

大学院教育学研究科の桑原敏典教授の専門は、社会科教育学。  
小学校から高校までの社会科で、どんなテーマをどのように教えるか研究している。  
目指すのは、自主的・自立的に判断し行動できる子どもの育成だ。



▶授業づくり研究の様子

ように問題解決するかを意思決  
定させる—というもの。社会的  
論争をテーマに取り上げ、授業  
の中で対立点を浮き彫りにする  
この取り組みは、当時の授業づ  
くり研究では新しい試みだった。  
現在の社会科教育学では、さま  
ざまな価値観について議論し判  
断した上で、子どもに合意を作っ  
ていく手法などが焦点になって  
おり、桑原教授の授業開発も進  
化している。

## 現場で求められる教員とは

子どもが過去の出来事を自分  
なりに捉え直して解釈すること  
を目指す社会科教育には、社会  
科を得意とする教員の養成が欠  
かせない。「得意」とは、教員自  
身が社会問題に関心を持ち、自  
分で調査するなど実際の社会を  
理解し、解決に向けた考えを  
持っていることを指し、  
指導技術が高いことだ  
けを意味するのでは  
ないという。

昨年5月、桑原  
研究室のゼミ生ら  
社会科教育学の学  
生が中心となって  
「ティーチン岡  
山」を始めた。こ  
れは市民と社会問  
題について意見交換  
するもので、市民感覚

を授業づくりに生かすのが狙い。  
桑原教授は取り組みを自主的に  
進める学生たちにテーマ決定や  
議論の進め方をアドバイスして  
おり、「将来教員になった時、社会  
情勢に合った題材を取り上げ、主  
体的に授業をつくれるようになって  
ほしい」と期待する。

## 教員養成に力

学校教育のしるべとなる学習  
指導要領は、平成10年の改訂で、  
自ら学び自ら考える力などの「生  
きる力」の育成を基本的な狙いと  
したものに大きく方向転換。子  
どもの意欲を引き出し、伸ばす  
教員の力がこれまで以上に問わ  
れている。

「教員一人一人がしっかりした  
『教育観』『授業観』『社会科観』  
を持つことが重要」という桑原教  
授は、教員養成研究の成果が伝  
わりにくい現場教員に最新の情  
報を伝えるため、他大学の研究  
者と連携し、教員研修の改善に  
も力を入れる。「ただ学習指導要  
領に沿って教えるのではなく、目  
の前の子どもたちにきちんと責  
任を持って教えられる教員になっ  
てほしい。そうすれば、多くの情  
報を自分で判断し、行動できる  
子どもが育つでしょう。将来を  
担う子どもたちにより良い教育  
を提供するため、教員養成にか  
ける桑原教授の思いは熱い。

生体肺中葉移植手術の様子



TOPICS  
Okayama University

## 世界初 生体肺中葉移植に成功

### 3歳の男児に母親の肺の「中葉」部分を移植

岡山大学病院は7月1日、重い肺の病気に苦しむ3歳の男児に、母親の肺の「中葉」部分を移す生体肺移植を実施し、無事成功した。生体肺中葉移植の成功は世界初で、同時に国内最年少患者への肺移植となった。今回の手術の背景には、改正臓器移植法施行後3年たった

今も、15歳未満の脳死ドナーが2人しか現れておらず（手術実施時点）、脳死移植の可能性は低いという状況がある。そのため、担当医が男児の両親と話し合い、生体肺中葉移植に臨んだ。通常、生体肺移植は肺活量の多い「下葉」部分で行うが、体の小さい子どもにとって大人の「下葉」は大きすぎることが多く、「下葉」よりも小さい「中葉」を使うことでこの課題をクリアした。手術後、男児は大好きな新幹線のおもちゃで遊んだり、たこ焼きを頬張るなど、順調に回復し9月26日、無事退院した。

執刀医の大藤剛宏呼吸器外科准教授は、「この手術の成功は今まで体が小さすぎて移植をあきらめていた多くの子どもたちを救う道しるべとなった。今後は移植を希望するすべての子どもたちの命を救えるよう全力を尽くしたい」と話している。

文部科学省の「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に8月6日、岡山大学が選定された。本事業は、大学等における研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動の支援を目的に、今年度から始まる事業で、岡山大学を含め22の「リサーチ・ユニバーシティ（研究大学）」を選定。選定された機関は今年度から10年間、本事業の支援を受ける。

## TOPICS 「研究大学強化促進事業」支援対象機関に選定

### 世界で戦えるリサーチ・ユニバーシティを目指す



▲研究大学強化促進事業の支援対象機関に選定された岡山大学

文部科学省 研究大学強化促進事業：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm)

## 岡山大学病院が新生生前診断実施施設に認定

### 中国地方初 7月から実施

TOPICS  
Okayama University



▲遺伝子カウンセリングを行う担当医

岡山大学病院は6月26日、妊婦の血液で胎児の染色体異常を調べる新しい出生前診断の実施施設に中国地方で初めて認定された。臨床遺伝専門医の資格を持つ産婦人科医師と小児科医師らが担当し、7月11日から診断を開始した。

新しい出生前診断は、母体血中のDNA断片の量の比から胎児が染色体異常をもつ可能性を示す非確定的検査だが、血液だけで簡便に検査できるため、妊婦が検査の意義や結果の解釈を十分に理解しないまま診断を受けることがないよう、検査前と検査後に十分遺伝カウンセリングを行う必要がある。岡山大学病院では、診断対象を①胎児がダウン症などの可能性を指摘された②以前の妊娠で胎児がダウン症などだった③出産予定日の年齢が35歳以上④のいずれかに該当する妊娠10週以上16週未満の妊婦とし、かかりつけの医療機関からの紹介で予約を受け付けている。8月8日までに18組の夫婦がカウンセリングを受け、12組の夫婦が診断結果を受け取った。産科婦人科の平松祐司教授は、「本検査は胎児にとって是非侵襲的検査だが、カウンセリングで検査の特徴や限界を理解した上で受検してほしい。日本産婦人科学会、日本医学会等の出した指針に則って正しく運用され広く普及することを期待している」と話している。

岡山大学は、地域・社会から必要とされる大学に発展していくため、学生や若手教職員の意見を大学運営に反映する「学長と学生・若手教職員との対談」を企画し、8月5日、第1回目として森田潔学長と学部生が教育・研究の現状と課題について対談する「学長と学生との対談」を本部棟で開催した。



▲学長と学生の対談会場の様子

## 「学長と学生の対談」を開催

### 学生や若手教職員の意見を大学運営に反映

TOPICS  
Okayama University



▲課題や要望を述べる学生

全11学部1コースから13人が出席。許南浩企画・総務担当理事をファシリテーターに、学生らが日ごろ考えていることや自身の学部・コースの紹介、本学の良い点、本学への要望など活発に意見を述べた。図書館の開館時間延長や取得可能単位の上限緩和、学部間の交流強化、留学手続きの統一といった要望に、森田学長と許理事が丁寧に回答し、今後の検討事項や課題も明らかになった。「これから日本の中で、岡山大学はどんな存在になるのか」という質問に、森田学長は「教育、研究、外部評価、国際すべてに注力し、世界大学ランキングで100位以内、日本では10位以内に入るような、世界でも地域でも存在感のある大学を目指す」と力強く答えた。



バスで多くの高校生が来学  
(理学部付近)

# TOPICS

Okayama University

## オープンキャンパスを開催

### 高校生らが岡大体験



▲大学生に学生生活や勉強について質問する高校生

岡山大学津島地区と鹿田地区で8月9、10日、「オープンキャンパス2013」が開催され、全11学部1コースで模擬授業や個別相談、実習体験、研究室見学といった多彩なイベントが開かれた。

9日は、岡山県内外から高校生や保護者ら約1万人が参加。各学部の説明会をはじめ、女子学生と女子高生との交流パーティや大学の教科書を試し読みできるコーナー、本学学生が製作したゲームやアプリを体験できるコーナーもあり、高校生らは興味を持った学部を足運び、在学生と交流するなど、岡山大学の雰囲気を楽しんでいた。

全体説明会では、森田潔学長が本学の魅力をアピール。本学学生が受験勉強のやり方や学部選択について自分の体験を話し、高校生らは真剣な表情で聞いていた。

## アフリカ地域の教育関係者が 附属小で実践授業

### 子どもたち「やる気出た」

# TOPICS

Okayama University

▼熱心に授業をするアフリカ地域の教育関係者



岡山大学で、アフリカ地域の初等理科教育の質の向上を目的とした研修に参加していた同地域の教育関係者12人が9月3日、岡山大学教育学部附属小学校で算数と理科の実践授業を行った。

教育関係者らは、分数や燃焼、光合成を学ぶ6年生の授業を担当。アフリカの子どもの好きなゲームを紹介して導入部分から授業に引き込み、「授業のめあて」を自分で考えさせるなど、学習者中心の授業を展開した。

通訳を介して英語で授業を受けた子どもたちは、「言葉はわからなくても授業はわかりやすかった」、「発表に明るく応えてくれ、やる気が出た」など、普段と違う授業に顔を輝かせていた。

教員が一方的に教える詰め込み型の授業が多いアフリカ地域から来た教育関係者らは、約2カ月間の研修で同小学校の授業を見学し、教員の発問や授業運用を研究、分析。本学教員の指導を受け、来日前に作成した指導案を改善し、実践授業に臨んだ。

岡山大学と財団法人津山慈風会・津山中央病院は7月26日、「岡山大学・津山中央病院共同運用/がん陽子線治療センター」を津山中央病院敷地内に開設し、平成28年3月の開業を目指すと発表した。陽子線や重粒子線などの粒子線治療を行う施設は現在、全国で11施設のみで、本センターが完成すれば、中四国地方初の粒子線治療施設となる。

同日行われた記者発表で、岡山大学の森田潔学長と財団法人津山慈風会の浮田芳典理事長は「今後の医療や保健サービスの方向を広げる取り組み。本センターの開設で岡山県の医療産業都市化を推進し、県北部の活性化にも貢献したい」とあいさつ。岡山大学病院の金澤右副病院長が本センターの概要について詳しく説明した。

がん治療では電磁波のX線を用いた放射線治療が主流だが、粒子線は腫瘍に集中して照射することができ、周辺の正常な臓器への影響が少ない利点がある。今後、がん患者の半数程度がこうした放射線治療を受けることが予想され、本学でも導入を検討していたところ、津山中央病院から



▲開設を発表した森田学長（左から3人目）と浮田理事長（左から4人目）ら



▲「がん陽子線治療センター」の完成予想図

陽子線治療センター開設への協力依頼があり、本学と同病院が共同運用することになった。

津山中央病院は本学に寄付講座「陽子線治療学講座」を設置し、同講座の教員を中心に同センターでの診療や研究、人材育成を行う。また、岡山大学病院は「陽子線治療外来」で広く患者を受け入れ、同センターと患者を結ぶ。

# TOPICS

Okayama University

## 「がん陽子線治療センター」開業へ

### 津山中央病院と共同運用

## 宇宙を旅したヒマワリ種子 小中学校に引き渡し

### ロシア国際宇宙教育実験参加の杉本准教授

# TOPICS

Okayama University

ロシアの「Bion-M1 ミッション国際宇宙教育実験」に日本側コーディネーターとして参加している岡山大学資源植物科学研究所の杉本准教授は7月10日、宇宙を旅したヒマワリ種子を笠岡市の大島中学校に届けた。

同実験は、笠岡市と浅口市の小中学生が準備したヒマワリの種子をロシアの無人宇宙船「Bion-M1」に載せ、1カ月間地球軌道上を周回。帰還した種子



▲植木鉢にヒマワリ種子を植える生徒ら

を栽培し、宇宙環境が種子の生存や成長に及ぼす影響を観察するもの。

同日、大島中学校を訪れた杉本准教授は、生徒の前に同実験の目的や宇宙植物科学研究の意義について話し、宇宙から帰還したままの状態に密封されたヒマワリ種子約70粒を生徒代表に手渡した。生徒らは早速引き渡された種子を植木鉢に植え、水やりを行った。

日本からは他にも同市の中央小学校と浅口市の寄島小学校が参加。寄島小学校には11日にヒマワリ種子を届けた。実験に利用したBion-M1は2013年4月19日、カザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、5月19日、地上に帰還した。

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

## 6 June

**9日** 「オカヤマウエルカム・ピクニック」を開催  
地域総合研究センター（AGORA）は、留学生と日本人学生が一緒に岡山の街を歩いて歴史と文化を学ぶ「オカヤマウエルカム・ピクニック」を岡山市内で開催。他大学の学生や一般の方を含む103人が参加。10人程度のチームに分かれて後楽園や岡山城、出石町といった観光スポットを巡り、田植えやお茶席を体験した。



**15日** 環境管理センターが講演会「東日本大震災2年後から考える環境・安全・安心」を開催

**26日** エコナイト2013を開催  
本学学生らでつくる岡山大学エコナイト2013実行委員会は、環境省の「CO削減/ライトダウンキャンペーン」の一環として、東福施設（ピオーネ・ニオン）で「岡山大学エコナイト2013」を開催。今回初めて公募したエコナイトキャラクターは、発電機をイメージした「リットちゃん」に決定。



**20日** 教育学部と附属図書館の共催による「池田家文庫」ことも向け岡山後楽園発見ワークショップを開催

**26日** 卒業生フオーアップセミナーを東京サテライトオフィスで開催

**27日** 定例記者発表を開催  
おかやまメディカルイノベーションセンター（OMIC）の「OMIC産学官共同研究拠点整備・分子イメージング研究推進事業」が、文部科学省先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業に採択

**28日** 内山工業株式会社から同社の海外工場で本学学生が研修を行うための支援金の寄贈を受け、感謝状を贈呈

**29日** 岡山大学「学部」創生シンポジウムを開催



## 7 July

**1日** 「電波の日」総務大臣表彰受賞の秦正治教授に学長表彰  
岡山大学病院で生体肺中葉移植に世界で初めて成功

**10日** 国際交流スピーチコンテストを開催  
言語教育センターは、留学生と日本人学生が国籍や言語文化を超えて相互に理解するきっかけにしようと、国際交流スピーチコンテストを津島地区の一般教育棟で開催。サウジアラビアやインドネシアなど4カ国7人の留学生と日本人学生計10人が日本語でスピーチ。国際交流に関心のある一般の方や学生ら約100人が参加し、熱心に聴講した。



**16日** 中国中央財經大学の副学長らが来学

**16日** 8月2日 資源植物科学研究会 所史資料館で企画展示「貴重資料合同展「三つの研究所」」を開催

**17日** 企業への就職や進学を目指すボストーク、博士課程大学院生のための講演会を開催

**24日** 中国陝西師範大学の甘暉党委書記らが学長を表敬訪問

**25日** 定例記者発表を開催

**25日** 環境管理センターが環境マネジメントについて学ぶサステイナブルセミナーを開催

**26日** 「岡山大学津山中央病院共同運用/がん陽子線治療センター」の共同記者発表を開催

**31日** 「第8回高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」を開催  
大学院自然科学研究科は、高校生と大学院生が研究内容を紹介し、双方の交流を深める。第8回高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を創立五十周年記念館で開催。岡山県内外の高校17校から84グループと本学大学院自然科学研究科の大学院生31人が参加し、ステージ発表やポスター発表を行い、交流を深めた。



## 8 August

**2日** キャリア開発センターが「大学キャリア支援フォーラム」を開催

**5日** 森田潔学長と学部生が教育・研究の現状と課題について対談する「学長と学生との対談」を開催

**6日** 文部科学省「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に選定

**6日** 「家族の日」を開催  
ダイバーシティ推進本部次世代育成支援室は、本学教職員の家族を招き、普段の仕事ぶりなどを見学・体験してもらった「家族の日」を開催。教職員とその家族計15組38人が参加。



**7日** ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が研究スキルアップ講座「英語論文書き方セミナー」を開催

**9・10日** オープンキャンパス2013を開催

**27日** 世界ジュニアパワートリフティング大会で金メダル獲得  
米国テキサス州で開かれた「第31回世界ジュニアパワートリフティング選手権大会」の男子66kg以下級で、本学の西村義人さん（医学部5年）が「スクワット」「ベンチプレス」「デッドリフト」「トータル」の4部門すべてで金メダルを獲得。同大会のすべての部門で金メダルを獲得するのは日本人男子初の快挙。



## 9 September

**1日** ナノバイオ標的医療イノベーションセンターが「難治固形がんに対する遺伝子治療」キックオフシンポジウムを開催

**6日** 第2回岡山大学知的財産フォーラム2013を開催

## 研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の森田学教授の研究グループは、抗酸化物質の一つである還元型コエンザイム（NADH）を歯茎に塗布することで、歯茎の加齢変化を抑制することを突き止めた。米国の歯学系科学雑誌「Journal of Dental Research」に掲載。（9月・臨時記者発表）

■大学院自然科学研究科の松本正和准教授総合研究大学および分子科学研究所の研究グループは「コンピュータシミュレーションを用いて、氷が内部から融解する仕組みを分子レベルで詳細に解明する事に世界で初めて成功した。科学雑誌「Nature」に掲載。（9月・臨時記者発表）

■大学院医歯薬学総合研究科の成瀬憲治教授と入部玄太郎講師の研究グループは、高血圧治療に広く使われているカルシウム拮抗薬のアゼルニジピンとアムロジピンが心臓収縮をほとんど抑制しないことを世界で初めて単一細胞レベルで確認した。欧州の薬理系科学雑誌「European Journal of Pharmacology」に掲載。（9月・臨時記者発表）

■大学院自然科学研究科の山本泰教授らの研究グループは、植物の光合成の光化学反応系を強化から守る上で、葉緑体チラコイド膜や膜上の光化学系複合体の動きが極めて重要であることを明らかにした。オンライン科学誌「PLOS ONE」に掲載。（9月・定例記者発表）

■岡山大学病院の古松毅之助教授らの研究グループは、適度なメカニカルストレスはさまざまな転写因子にはたらく活性化する中で、軟骨様細胞における細胞外基質産生を飛躍的に亢進させることを明らかにした。国際英文科学雑誌「Journal of Biomechanics」に掲載。（7月・臨時記者発表）

■大学院自然科学研究科の高田潤特任教授の研究グループは、地下水が湧き出る水辺で微生物が作る従来不要物とされていた酸化鉄を原料として、ナノ粒子から構成される人工的に作製困難なシリカ・マイクログロブ材料を開発し、これが有機合成反応で優れた触媒活性を示すことや様々なガス吸着機能が高いことを世界で初めて見出した。米国の科学雑誌「ACS Applied Materials & Interfaces」に掲載。（7月・臨時記者発表）

■岡山大学病院の秋山倫之講師らのグループは、非常に稀なクレアチニン合成障害の患者を国内で初めて発見し、治療を開始した。この症例報告はドイツの臨床系国際雑誌「Journal of Inherited Metabolic Disease Reports」に掲載。（7月・臨時記者発表）

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、抗体医薬に対する耐性に関わるタンパク質と耐性機構を世界で初めて明らかにした。米国の科学雑誌「Journal of Cancer」に掲載。（7月・定例記者発表）

■大学院医歯薬学総合研究科の榎本秀一教授らの研究グループは、金属イオンを認識して発色し、その発色濃度に応じて色調が変化するケミカルセンサーを開発した。ドイツの科学雑誌「Chemistry-An Asian Journal」に掲載。（8月・臨時記者発表）

■資源植物科学研究科の平山隆志教授と理化学研究所の研究グループは、植物特有のミトコンドリア遺伝子発現調節機構を世界で初めて解明した。「Nature Communications」に掲載。（8月・臨時記者発表）

■大学院環境生命科学研究科の村田芳行教授らの研究グループは、病原菌表面由来物質であるエリシターがカルシウム依存性タンパク質キナーゼであるPKCを介して植物の葉にある気孔の閉口運動を誘導する分子機構を解明した。米国の植物科学雑誌「Plant Physiology」に掲載。（9月・臨時記者発表）



本学卒業生、在学生、教職員、一般の皆様 ぜひお越しください。

# 岡山大学ホームカミングデイ 2013

2013.10/19(土) 午前9時40分～

※日時、場所は各企画で異なりますのでご注意ください。

## 岡山大学津島キャンパス 他

ホームカミングデイは、本学卒業生の皆様が大学の近況にふれ、なつかしい恩師や同窓生、在学生との交流・親睦を深めていただくことを目的としたイベントです。本学卒業生だけでなく、皆様のご来場をお待ちしております。

**創立五十周年記念館**

歓迎式典・Alumni (全学同窓会) 設立総会等

▶時間/ 10:00～11:30

フジテレビ山崎夕貴アナウンサートークショー

本学経済学部卒業生である山崎夕貴さんのトークショーをお楽しみください。

▶時間/ 開場/ 12:00～ 開演/ 13:00～14:30

▶インターネット申込先: <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2013.html>

要・事前申込  
定員400名

福引き抽選会

▶時間/ 15:30～



茶道部お茶席

▶時間/ 11:00～

先着250名

創立五十周年記念館1階で整理券を配付します。



関野智子「シクラメン薫る」

岡大卒業生アートギャラリー 洋画家 関野智子絵画展

▶日時/ 10/19(土) 10:00～16:00

10/21(月) 9:00～14:00も開催しています。

○同時開催: 三椏和紙体験

▶講師/ 東馬場洋先生

▶日時/ 10/19(土) 10:00～16:00の間で随時



▲フジテレビ山崎夕貴アナウンサー

### 創立五十周年記念館周辺

応援団総部演奏

▶時間/ ①9:40頃～

②福引き抽選会終了後～(10分程度)

うらじゃ演舞

▶時間/ ①11:30頃～ ②15:00頃～

■うらじゃ総踊り体験

①11:30頃～の演舞終了後

学生実行委員による特別企画

■岡大の魅力発見! スタンプラリー

スタンプをすべて集めた方には記念撮影とささやかなプレゼントをご用意しています。

▶時間/ 11:00～16:00 (受付は15:00まで)

岡大の卒業生、在学生、関係者によるお店

▶時間/ 11:00～16:00

- 満月BAR (飲食)
- EXCAFE (飲食)
- CafeZ (飲食)
- 晴れ間 (雑貨等)
- みまちゃんの店 (和菓子他)
- 新庄ひめのもち「グッドジョブ支援センター店」(餅つき実演)
- もちもちパン (パン)
- カフェ&トーク (飲食、留学生とトーク)
- 岡大名物! 岡大きびだんご
- 岡山大学オリジナルグッズショップ

1日限定 OPEN!

津島キャンパスウォークツアー

■企画ツアー 学生が学内をご案内します。

▶時間/ 11:30～(所要時間60分)

■予約ツアー 3組限定

ご希望の場所を巡るツアー。お気軽にお問い合わせください。

▶申込期日/ 10/11

▶申込先/ 学務部学務企画課

TEL: 086-251-7186

Email: koudai@adm.okayama-u.ac.jp

要・事前申込

ワンコイン健診ショップ

▶時間: 11:00～16:00 ▶1項目500円

### 大学会館ダンスホール

■ウェルカムパーティー

要・事前申込

▶時間/ 12:00～

▶申込期間/ 9/2～10/11 ▶参加費/ 2,000円

▶申込先/ 岡山大学同窓会事務局

TEL: 086-251-7019

Email: dousoukai@adm.okayama-u.ac.jp

### 当日開催「ミニ同窓会」募集

ホームカミングデイに合わせて、サークル・学科・ゼミなどのミニ同窓会を開きませんか?ご希望の方は、教室や体育館をお貸しすることもできますので10/9までに下記問い合わせ先までご連絡ください。

### アクセス

▶岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車、「岡大西門」バス停下車。臨時バスも運行予定。

※10/19(土)は、受付「岡大西門」バス停から西へ徒歩1分で詳細なパンフレットをお渡しします。

【問い合わせ先】

岡山大学総務・企画部 企画・広報課

TEL: 086-251-7019

Email: dousoukai@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

岡山大学ホームカミングデイ2013 検索

### 各学部等による企画

※詳しくは岡山大学ホームカミングデイ2013 ホームページをご覧ください。

文学部

■公開講座「フランス文学作品に見る人妻の恋」

要・事前申込

法学部

■講演会「対話力 中国と向き合う」

■懇親会 要・事前申込

理学部

■理学部オープンスクール

○講演会「植物が太陽光を使う時の知られざる苦労話」

○学科・附属施設別イベント

■理学部同窓会 要・事前申込

歯学部

10/20 鹿田キャンパス

※日時と場所にご確認ください。

■講演会「歯科医師として我が道を進む」

要・事前申込

■歯学部キャンパスツアー

薬学部

■薬用植物園の公開と植物解説

工学部

■工学部の施設・研究等公開

■工学部同窓会報告会

■工学部同窓会懇親会 要・事前申込

環境理工学部

■環境デザイン工学科の卒業生と

在学生の交流会

■環境物質工学科同窓会総会と懇親会

要・事前申込

農学部

■農産物販売

■半田山森林散策ツアー 要・事前申込

国際センター

10/18

※日時にご確認ください。

■第3回留学生同窓会総会及び

ミニシンポジウム

研究推進産学官連携機構

■施設公開



●岡山大学ホームカミングデイ2013 ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2013.html>



<http://www.okayama-u.ac.jp/>